

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171200421		
法人名	株式会社ソルヘム		
事業所名	陽だまりの家とうはく(北街)まとめ		
所在地	鳥取県東伯郡琴浦町大字徳万70-1		
自己評価作成日	平成23年6月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://fukushi-kouhyou.pref.tottori.jp/koukai/com/sys_top.asp

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市宮川町188-9		
訪問調査日	平成23年7月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員が資質の向上を目標にできるように指導を行い、資格取得や研修に積極的に取り組める環境を作っている。研修費の助成や研修に参加しやすいような勤務を作成するなどしており、事業所内研修も能力別に設けたり、書籍の購入や介助方法など、気軽に職員同士が話し合える環境を整えている。職員の得意な部分を引き伸ばし、また、不得意な部分は上記のように講習会で身につけ、補い、発信しあうことで、いつでも最先端の介護を実践できるような風土を形成している。特に不定期カンファレンスなどはトラブルが起きた時、また、介護上の疑問が浮かんだ時、その日のうちに解決し、翌日の介護から改善し、スタッフ利用者様共に安心した日常を送れるように役立っている。防災対策にも力を入れており、災害時に避難を行うのみでなく、当事業所が避難場所になる事も想定して検討している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ①介護度や寝たきり度、医療必要度が重度化している利用者が5~6名あるが、リクライニングチェアを活用しながら、ホールで楽しめる時間を工夫している。
- ②看取りを希望される家族に対し、担当医との連携により安心して暮らせる医療体制を整えている。
- ③介護福祉士などの資格取得に事業所として取り組んでおり、現在はほぼ60%の取得率であり、ケアの質の向上に取り組んでいる。
- ④3か月に1回防災訓練を実施しており、事業所が地域の避難場所になれるよう、1週間分の備蓄やAEDを設置している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意識を良く理解し、職員全体が共有して地域との関係を重点においた理念とし、朝ミーティングの後、毎日唱和し実行している。	玄関正面に理念を掲示し、職員全体が共有している。定期カンファレンスで利用者の実態をふまえた月目標を立てて具体的なケアを実行している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や他施設との交流に積極的に参加し、近く、または関係事業所等へ二ヶ月に一回発行する広報誌を利用者と共に配布している。公園などを散歩し出会う人との挨拶も大切な日課となっている。	地域の老人クラブ、保育園児との交流や、地域の行事など利用者と共に参加している。買い物や広報誌配布するなど地域の人達と触れ合う機会はある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を訪問して下さる方々と交流を通して認知症の人の理解や接し方など、日々の生活の実際をお話している。中学生の事業所研修を受け入れ実際に接していただき理解をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットや行事、および研修の取り組み内容とその成果の報告をし、意見を頂き反映している。外部評価の結果は全て開示しサービス向上に活かしている。	運営推進会議において、運営計画や利用者の様子等意見交換が活発にされている。また、メンバー以外の消防署・警察署の職員に、防災や交通安全についてのアドバイスを受けサービス向上に繋げるようにしている。	更に地域交流が促進されるようなメンバー構成を検討されてはどうか(例老人クラブ代表)
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当職員と協力関係を築き、助言を頂きサービス向上に努めている。多方面の役所関係の方との連携をよりいっそう深めていくよう努めている。	行政担当者・包括支援センター職員と連携し、利用者のサービス向上に繋がるよう努力している。また、職員の基礎研修には講師依頼し、協力関係をつくるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い、正しく理解をしている。ベッドや出入り口等拘束になる事のないケアに取り組んでいる。また、日々拘束がないか注意を払っている。	「身体拘束をしないケアについて」の学習会をし、職員は正しく理解し日々支援している。玄関は施錠しないで、チャイムにより安全に生活できるように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての理解を研修で学び正しく理解をしている。行動だけでなく、言葉においても無意識のうちに虐待行為を行っていないか注意を払っている。		

北街

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、内部、および外部研修にて学ぶ機会を持っている。必要であれば職員へ説明アドバイスをし理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に時間を取り説明している。また、重度化や看取りについての方針を医師、家族様とよく話し合いのうえ同意書を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の会議では各ユニットごとに意見を言いやすい雰囲気作りを行っている。意見箱を設置して意見、要望をあらわされる機会を設け、その都度回答している。	家族会や運営推進会議などで意見を聞く機会を設け、ホームの運営に反映させるようにしている。意見・苦情は職員が連絡ノートで共有し、職員会議で検討している。	家族会に参加できない方の意見を把握する工夫をしてほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや定期、不定期カンファレンスで職員の意見を聞き運営に活かしている。コミュニケーションを図るよう心がけ、必要であれば個々の相談を受けている。	年2回の職員アンケート・個人面談を行っている。管理者はミーティングや全体会議などで、職員の意見を聞く機会をつくり、話し合えるように努めている。	ミーティング・アンケート・個人面談から見えてきた課題を、じっくり意見交換をしてみてもどうか
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた勉強会、資格手当、給付などの支援をし、向上心を継続できるようにしている。勤務形態も無理のないように調整したり、意向に沿えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修の費用補助、勤務面での工夫、社内研修を実行している。社内研修では社外研修の研修発表を行い、研修内容の共有、レベルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との広報誌の交換合同行事の開催や、相互研修などを行って、様々な情報を取り入れケアに活かしている。積極的に他施設の見学を行い、日々の生活など参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい利用者様の生活状態を把握するようにし、必ず利用者様にお会いし、心身の状態や思いに向き合い、信頼関係作りに努力をし、安心して過ごしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が来苑時に話を聞くことや、一つ一つの問題などを傾聴して、関係作りに努めている。介護支援専門員などと連携を取りながら行っている。また、入所当初からこまめに様子報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずカンファレンスをし、家族様と利用者様の意向をお聞きし必要とされている支援を行っている。また、その都度デイサービスとの交流を含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いや苦しみ、不安、喜びを知ること努めて、共に支えあう関係作り、職員が共有し教えていただく場面が持てるように工夫し、声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気付いた情報を共有し、ご家族様の思いに寄り添いながら支援を行っている。日々の状態などをこまめに報告し来苑時には家族とのパイプ役となるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方々との関係を十分に配慮し、思いをお聞きし、途切れないように支援をしている。お聞きした内容についてはカンファレンスを行い、連絡ノートなどを活用しスタッフ全員で共有できるようにしている。	地域に暮らすなじみの知人や友人と継続的な交流が出来るように支援している。また、行きつけのお店での買い物支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったりし、みんなで楽しく過ごせる時間や、気のあった人と過ごせるよう場面作りし交流を行っている。利用者様同士の関係については全スタッフにて情報を共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族会、運営推進会議等に参加していただき関係を断ち切らないようにしている。退所された家族様も行事にお招きし、また、遊びに来ていただいている。職員も退所先に面会に行くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に寄り添いながら利用者様の希望の生活を把握し、出来る限り希望に添えるよう支援している。本人の希望については家族様にも協力していただき、十分に把握できるようにしている。	利用者個々の希望や意向の把握に努め、洗濯物をたたんだり、配膳下膳を職員と共に行い、役割をもたせるよう努めている。	重度化した利用者の意向の把握は困難な場合が多いが、職員間で共有し、引き続き把握に取り組んでほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや家族との会話で情報を得ている。また、利用者様との会話から聞き出してこれまでの暮らしの把握に努め日々の生活リズムがスムーズに流れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の支援より利用者様個々の行動等から不安や問題、楽しみとされる事を読み取り、カンファレンス等スタッフ間の話し合いにて、よりその方にあったサービスプランに移行するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開き、主治医、介護支援専門員、スタッフ、家族様で利用者様の今後のケアについて話し合いを行っている。利用者様ごとに担当スタッフを決めプランを作ることでより多くの意見の集約を図っている。	毎月モニタリングをし、必要時カンファレンスを開催し、見直しをしている。担当者会議は主治医・職員・家族の参加で行われている。また、毎月のモニタリング記録はお便りと共に家族へ送られ、共通理解を図っている。	現在モニタリング用紙を検討中であり、再度モニタリングの意義について確認されることを望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を用意し、個々の水分量、食事量、排泄睡眠状況やバイタル等を一枚の様式で把握できるようにしており、異変や問題点の解決等に役立て、それを元にプラン等の作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人ひとりに担当スタッフを設けることにより利用者様とその家族様との強い絆が保てるように柔軟で細やかな個々に合わせたサービスの提供を実現している。		

北街

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りに参加したり、ボランティアに来苑していただいたり、地域の方々との交流を図りより良い関係を築いている。また、地域の公園での花見会や地元温泉を利用した足湯ドライブなど楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に月二回の往診をお願いしている。毎日の利用者様の体調に応じてその都度連絡を取り、適切な対応や医療を受けられるように支援を行っている。	月2回の往診と共に緊急時も連絡相談ができ、指示を受けられる体制である。精神科など専門医の診察が必要な場合は家族との連携を図り、受診連絡体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェック等で健康状態を把握し、必要に応じて看護職と相談しあい対応を行っている。申し送りノートを利用したり、カンファレンス等で情報を確認しあっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当の医師と連絡を取り合い、また、定期、臨時のカンファレンスを開き対応、対策について協議し、情報を共有しあっている。利用者様に心配なく治療に専念していただけるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から家族様への説明、利用者様への対応等、全職員で相談し、より良い対応が出来るようにしている。精神的負担も軽減できるようカンファレンスを通じて対策を講じている。	★開設当時の利用者は介護度や医療必要度が高く、重度化した場合でも終末期までホームで過ごさせたいという希望もあり、今年度2例看取った。日頃からのかかりつけ医との連携を図り、看取りへの不安の解消に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が応急手当について、講習、実技演習、訓練を行っている。夜勤時の緊急対応についてマニュアルを作成し全職員が把握するように徹底、指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震時の訓練、消防隊との連携を消防の方々や職員各自が確認しあっている。緊急連絡網を作成し全職員で定期的に伝達訓練を行っている。	★「陽だまりの家」事業所全体としての防災マニュアルを作成すると共に、消防署と連携し3か月に一回の訓練や研修を実施した。またAEDを設置し、1週間分の備蓄を整えた。	自然災害マニュアルを現在検討中であり、期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや気持ちを尊重し、カンファレンスなどにて確認している。個人情報の取り扱いについても、施錠できるケースに保管したり、家人様以外から電話にて問い合わせがあっても安易に答えないようにしている。	利用者個々の人格を尊重し、出来ない或いはわからないと決めつけないで、役割が果たせるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に応じた声掛けや説明を行っている。利用者様が自己決定しやすいような環境づくりにつとめ、希望されることについてはカンファレンスや連絡ノートを利用し全スタッフで理解している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにあわせ一人ひとりの体調や趣味趣向を考えながらトイレや食事、入浴など時間を職員側で決めず本人の希望に沿ったケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動理美容や訪問理美容を活用、またスタッフが散髪を行ったりして、身だしなみを整えている。外出時には特におしゃれが出来るよう、利用者様と話を決めて決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど、利用者様と職員と一緒に協力しながら行っている。また、利用者様の希望がある時はメニューの変更なども臨機応変に対応している。	個々にあったさまざまな食事形態を準備し、飲み込みやすくおいしく食べる工夫をしている。また、こぼれやすい利用者には好みのエプロンを使用し、こぼれや汚染を防いでいる。彩りや器にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や一日の水分量を把握し、飲み込みが悪い場合には本人の好みの飲み物やゼリーなどにして対応している。二ヶ月に一度栄養士のアドバイスを受け毎月の献立を作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る利用者様には自分で歯磨きをしていただき、出来ない場合はスタッフが支援し、口腔内の清拭および入れ歯洗浄剤にて消毒し、必要に応じた適切な着脱もサポートしている。		

北街

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、利用者様に自然な声掛けを行い、自発的にトイレに行きかける様配慮している。支援が必要な利用者様に対してはその場にあった支援を行い清潔保持に努めている。	排泄を自発的に知らせることが困難な利用者に対しても、行動やしぐさなどで排泄パターンを把握して、さりげなく支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを作成し、初期の段階で自然な排便が出来るよう、水分量の調整や食物繊維の多い物などを摂取していただいている。段階に応じてセンナ茶や看護師の対応にて便秘が続かないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴をより楽しんでいただけるよう入浴剤を入れたり、足浴や季節に応じた菖蒲湯、薔薇湯等を行っている。入浴状況を常に把握し、拒否がある場合も間隔が空き過ぎないようにしている。	一日に3~4人の利用者を入浴支援し、拒否があってもスムーズに入浴できるよう工夫している。一方、毎日入浴する利用者もいる。 ★入浴の有無に関係なく足浴は毎日行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の様子を見ながら体調等に気を配り必要に応じて休息をしていただいている。昼夜逆転などを予防する為、日中はレクリエーションや体操等を取り入れて安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬等が無いよう薬の管理を徹底し、何重ものチェックを行う体制を作っている。服薬時も必ず最後までスタッフが見守り確認を行っている。また、薬の専門書籍も配置し、随時スタッフが確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内外に限らず地域や季節の行事を中心に計画を立てて参加していただいている。利用者様の言動から何を求めているか読み取り、計画以外でも細やかな楽しみの提供が出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりが楽しめるように希望に応じてドライブや買い物、花見などの地域行事参加を行っている。行事にはご家族様に声を掛けて参加していただけるように努めている。	月間行動計画の中で、行事やレクだけでなく日常的な外出の計画を立てて実行している。家族などと協力したり、希望により誕生日に外出をしている。	重度化した利用者、活発な利用者など、その人らしさを配慮した外出支援の在り方について意見交換を望む。

北街

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望により所持してもらい、スタッフ同行により郵便局へ行ったり、医療機関への支払い、また、買い物に行ったりしている。利用者様管理が困難な場合は預かり、買い物を代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を取り次いでいる。年末には出来る限り直筆にて年賀状を書いていたが家族様へ送付している。また、面会が難しい家族様には、電話や手紙を送っていただけよう願っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には観葉植物や施設の花壇で摘んだ花などを飾り、季節感を感じていただいている。温度、湿度をこまめにチェックし大きな音や光などの刺激を出さないように気を配っている。	フロアには利用者の作品(ちぎり絵や七夕飾り)や観葉植物・草花がさりげなく飾られ、季節感がある。ソファやリクライニングチェアで過ごしたり、畳の間で本を読むなど、居心地良い空間としての工夫がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや廊下にソファや椅子を置き、一人で過ごしたり、また、仲の良い入居者同士が話しやすいようにしている。和室も活用し落ち着いた雰囲気でも過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	話しをしながら、自宅で使い慣れた筆筒などの家具を使っている。また、写真や思い出の品などを置き、居心地よい空間に配慮している。最近撮った写真も居室などに話しをしながら貼っている。	居室には使い慣れた家具や仏壇を置き、最近の写真は、家族に渡したり部屋に飾ったりして、思い出がよみがえるよう配慮している。居室内の整理整頓は利用者と共にっており、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりをつけており玄関にはスロープを付けている。安全に生活していただけるよう廊下に常夜灯をつけるなど利用者様の目線に合った物の配置や環境整備に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171200421		
法人名	株式会社ソルヘム		
事業所名	陽だまりの家とうはく		
所在地	鳥取県東伯郡琴浦町大字徳万70-1		
自己評価作成日	平成23年6月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と家族が離れて生活していても深く繋がっていると感じていただけるよう、日々の生活の様子を一月に一回のスタッフ自筆のお手紙を出して伝えたり、行事、家族会への参加への声掛けを積極的に行っている。職員は資質の向上を年間目標とし、積極的な資格取得、技術の向上に努めている。介護事故、利用者の状態変化に応じて早々にカンファレンスを開き、解決、改善している。利用者の急変時でも24時間対応の主治医と連絡がとれ、適切な指示や往診をお願いしている。地域交流も重視しており、地域の一員と地域の方に感じていただけるよう行事、運営推進会議、防災訓練などへの参加をしたり、参加していただいたりしている。また、近隣のグループホームとは日々お互いアドバイスを行ったり、春には施設前の公園で町内の系列グループホームと合同でお花見会を行い親睦を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員が共有し、常に意識している。また、地域の一員としての関係を大事にし、理念としている。この理念を朝ミーティングで毎日唱和し、管理者、職員は共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や他施設との交流に積極的に参加している。また地域の老人会の方々を招き交流を行っている。二ヶ月に一回の広報誌を利用者とともに地域の事業所等へ配布を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々からの相談に適切なアドバイスが出来るように事業所全体で応じている。また、近隣の中学生による社会参加を目的としたボランティアを積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットを活用し事故防止にどう取り組んでいるのか、また、取り組んだ内容とその結果を報告し意見を頂き、反映している。行政、地域の方、家族様、ゲストの方など多数の方に参加していただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が行う研修に参加したり市町村の職員に研修の講師をしていただいている。また、利用者様の件で相談、助言を頂いたり連携をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの出入り口には鍵は掛けないなど全職員が正しく理解している。また、身体拘束をしない安全な支援の方法をカンファレンスなどで話し合い、実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	無意識のうちに行われる虐待がないか、何が虐待なのか研修に参加し虐待防止に努めている。また、独自のマニュアルを作成している。管理者は職員が悩みやストレスを抱えている時は常に相談にのっている。		

南街

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加や勉強会を開き理解を深めている。必要のある時は、職員が充分理解できるよう説明やアドバイスを行い、理解できるまで研修を再度開くなどしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族、入居者様の立場に立ち説明している。利用料金や重度化、看取りについての対応、医療連携体制などについて詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の要望や意見を出してもらう機会として家族会を開いて話し合いを行っている。意見や苦情について検討が行われ、改善の結果を伝えて運営や支援に活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、カンファレンス、勉強会などで意見、要望を聞く機会をもうけ、その際も意見が出やすいように工夫した上で職員の思いを汲み取り、運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた勉強会、資格手当、給付金などを活用し、やりがいある職場環境、切磋琢磨し合える職員関係を築けるよう管理者、リーダーが考え、実行している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修の費用助成、勤務シフト面での工夫、また、社外研修に出席した職員のみならず、職員全員が周知出来るよう内部研修での研修発表を行い、全職員が共有できる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修を行って、職員の質の向上、他施設との広報誌の交換や合同行事を開催して、良いところは参考にしたりと共有しあい、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態や利用者様の趣味趣向を把握するように努め利用者様、家族様の不安や思いを理解したうえで職員との信頼関係作りにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思い、利用者様の思いを聞き、受け止めながら、利用者様のみならず、家族様、地域を含めてどのような対応が出来るか事前に話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、利用者様、家族様等の実情や要望をもとに可能な限り柔軟な対応を行っている。グループホーム入所という考えだけでなく、他事業所とも連携を図りながら必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いや喜怒哀楽を共感し、理解することに努め、日々の暮らしの中で共に支えあえる関係作りに留意している。お互いが協働しながら生活できるように声掛けや工夫を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族様のこれまでの関係を尊重し、今後もよりよい関係を築いていただけるよう、利用者様の日頃の状態をこまめに報告、相談を行っている。家族様の協力も得るようにし、パイプ役となれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が大切にしてきた人間関係や社会との関係を継続できるように、近隣の方や地域ボランティアの方の協力を頂き、交流していただけるように働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係について情報を共有するようにカンファレンス時などに全スタッフにて話し合いを行っている。また、連絡ノートも使用し、情報共有が絶えないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族会や運営推進会議に参加していただき関係を断ち切らないようにしている。また、退所された方については面会に行ったり、気軽に来苑していただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日々の行動や表情から希望や意向を把握できるように日々の関わりの中で声掛けなどを行うようにしている。全スタッフが思いや意向について感心をはらい、把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフが本人や家族と馴染みの関係を築きながら、その人独自のライフスタイルや生活歴を把握するように努めている。プライバシーに配慮しつつ家族の協力を得て、その人の理解に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	週間サービス計画書をケアプラン更新時に見直ししている。臨機応変にその日、その時に楽しめる事を重点的に行っており、その中の発見などを日々の生活に反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年二回、担当医、介護支援専門員、スタッフ、家族様を交えた話し合いを行っている。状態に変化が見られた場合には利用者様、家族様とお話しし、ケアプランの見直しを行った上で説明を行い承諾を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には勤務に付いたスタッフが利用者様の様子を必ず記入するようにし、医療的部分のみでなく他愛もない会話や表情、何気ないしぐさなども記録し、日々の変化を多角的に検証できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所が長くなると共に利用者様のADLも低下してきている。刻一刻と状況が変化していく中、家族様をまじえた話し合い、スタッフ間の話し合いを常に行い、臨機応変に対応出来るように強化している。		

南街

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の団体をお願いしたりしてボランティアを募っている。また、地域行事などには積極的に参加したり、利用者様と散歩に出かけるなど、顔見知りの関係を築くようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	重度化に伴い夜間対応を必要としたり、毎日の通院が長期的に必要ななど今後問題が考えられる場合には話し合いの上、希望に沿った支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートと口頭にてナースとの連絡を綿密に行っている。必要な手当についてはナースの申し送りに従い、特に変化があった場合などは電話にて対応を仰いだりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院決定と共に、常に担当の医師と連絡をとりあい、退院のめどなどを提案した上で経済的、心身的に心配なく治療に専念していただけるようにしている。また、家族様にも同様に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族様等と話し合いを行い、職員同士連携を取りながらチームで支援に取り組んでいる。そのようなケースが迫った場合にも医療機関を交えた面談を行い様々な看取りのケースを想定した案を交換している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習を定期的を受け、応急手当や急変、事故発生等に備えて実践力を身に付けている。また、二次感染を防ぐ為の吐物処理方法などの内部研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行うと共に、その後の反省もしながら職員同士で確認しあっている。また緊急連絡網を作成し、伝達ミスが無いように緊急連絡網のテストも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語で会話することを心がけ常に誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応をしている。入居者の方のプライバシーを尊重し社内研修とあわせて、接遇の徹底も行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取る中で、思いや希望をさせられることが出来るように雰囲気作りを心がけている。利用者様の考えを尊重し、以前言われた希望を記録にとどめ、他の機会の参考にしてている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中でその都度声掛けを行い、その日をどのように過ごしたいか、今、何を求めているかコミュニケーションを取り希望に沿う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と気候や天気合った服をコミュニケーションを取りながら決めていく。また、季節の変わり目などの衣替えなども利用者様と共に行っている。櫛や化粧を使い整容も楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど出来る事は手伝っていたり食事の準備を行っている。食事支援時はコミュニケーションを交えメニューを伝えたり、献立や季節の食材などについて会話を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった摂取しやすい食事形態等に対応したり、白米のかわりにマンナンを使用するなどカロリー面の調整も行っている。食器も状態や力に合わせて配慮し、また、自力摂取が困難な場合は支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日入れ歯洗浄剤にて義歯を清潔に保てるようにしている。利用者様によってはガーゼやスポンジを使用して口腔内を清潔に保てるよう支援している。		

南 街

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けによる排泄の促し、意識が持てるようにしている。利用者様の排泄パターンを把握し、利用者様のできることにあわせ、トイレでの排泄を支援し、また、できるだけ自立に向けた対応、支援をしていく。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時にはセンナ茶、ヨーグルト、牛乳やバナナなどで自然な排便を促すようにしている。水分が摂れない場合はゼリーなどで工夫している。体調を考え、水分、運動、食事に十分配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に応じた時間で入浴支援している。足浴をしたり入浴剤をつかったり、季節によっては薔薇などを浮かべて楽しんでいただいている。滑り止めマットなども活用し転倒など、事故防止に気を配っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないご利用者様にはスタッフが付き添って寝たり、暖かい飲み物などで気分転換していただいている。体調をみながら和室や居室にて休息支援している。体調、気温にあわせ掛け物調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様による誤薬防止の為、薬は施錠した保管場所に保管している。各入居者様の服薬リストが介護現場にあり、薬の内容を把握し腹薬時は見守り、支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常に利用者様に関わり、行きたい所、好きなもの等聞くようにしている。季節に応じた行事、外出、散歩や買い物、喫茶ドライブなどそれぞれにあわせ、また、食事準備、畑仕事、洗濯物など行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様と会話し、希望を聞いたり行きたいところがあればその日にでも外出支援している。祭りなど地域交流を行い、一人ひとりが楽しめるよう支援して、ストレス軽減に努めている。行事等には家族様にも声をかけ、参加を促している。		

南街

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により所持してもらう体制にしている。利用者様の所持が難しい場合は預かり、管理を行っている。預かり金を使用する場合は家族様に確認し、毎月、明細書を送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話を希望された時など、その都度対応し話をさせていただいている。年末には年賀状を利用者様に書いていただき、家族様へ送っている。難しい場合はスタッフが内容を聞いたり、代筆支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の前には表札をつけ、のれんや写真などで利用者様の自室である事がわかりやすいようにしている。季節に応じて壁に飾りつけをしたり、庭に植えた花が咲くとホールや居室に飾るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを置き、気のあった利用者様同士で座ったりしていただいている。また、和室にて休まれたり話が合う方が隣同士に座られたりと、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の写真や家族様が持ってこられた筆筒、生活道具を利用者様とスタッフで話し合い利用者様の使いやすいように工夫している。利用者様が望むものは一緒に買いに行き、居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自立した生活が送りやすいよう、トイレや廊下に手すりをつけ、足元に常夜灯を設置した。一人ひとりの能力を見極め、ものの配置など環境整備に配慮している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	2ヶ月に1回必ず運営推進会議を開催し運営計画、利用者の様子報告、課題作成をし活発に話し合っってアドバイスを受けているが地域の方の参加が固定化してしまっている。	地域の方にもっと参加していただき今以上に当ホームを理解していただけるように活発な運営推進会議が開催できるように努めていく。	今まで以上に地域交流が促進されるようなメンバーに参加していただき運営推進会議において、活発な話し合いをし、地域の方に当施設を理解していただくことにより関係性を深めていく。	12ヶ月
2	6	家族会において担当者会議、懇談会を開催し又、面会時には、要望の出やすい雰囲気作りに努め確認を行いホームの運営に反映している。ホーム玄関に意見箱の設置をしたり毎月のお便りに意見用紙を添付したりと努めているが活発に活用されていない。	家族、職員の意見要望をホーム内で共有し活かせるよう努めていく。	家族会に参加できない方など、様々な理由にてホームに来苑できない家族様の意見、要望を把握出来るようお便り、電話などを活用し把握に努めていく。	12ヶ月
3	7	職員間のコミュニケーションは、良好である。代表者、管理者は、年2回のアンケート、年1回の個人面談を行い職員の意見をいつでも聞けるように心がけているが日々の業務多忙のため、話が出来ない雰囲気にならない時もある。	職員の意見を聞く機会を常に設け話しやすい環境を整え運営に反映されるように代表者、管理者は、つとめていく。	代表者、管理者は、常に個々の職員と向き合い信頼関係を深め業務の問題点について話し合ったり、プライベートな問題も相談出来る関係作りに努めていく。	12ヶ月
4	9	利用者に寄り添いながら希望の生活を把握し家族、地域の方々の協力を得ながら出来る限り希望に添えるよう支援している。しかし、重度化した利用者の意向の把握に試行錯誤している。	重度化した利用者の意向の把握を職員間で話し合い支援に反映させていく。	職員間で重度化した利用者の意向についてカンファレンス等で話し合い意向の把握に努め支援内容を共有し利用者の希望する生活に近づけるようにする。	12ヶ月
5	13	火災訓練(地震火災を含む)に関しては、消防署、地域の方に協力していただき年2回の避難訓練、避難経路の確認、消化訓練、又、毎月の自己点検の実施、新しく火災マニュアルの作成するなどしているが津波などの自然災害マニュアル作成に試行錯誤している。	様々な災害に対応出来るようマニュアル作成しマニュアルに添って年間をとおして訓練していく。	火災訓練又、独自の自己点検簿により消火設備の点検を行うと共にホーム全体で自然災害(津波、地震)マニュアル作成に取り組みマニュアルに添って訓練を行っていくよう努める。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。